

山本区長 × 佐渡音楽大使

～懇談会の様子～

▼令和4年度から「すみだ音楽大使」を務める佐渡裕さん。山本区長との懇談会を実施し、区の音楽都市づくりに対する想いをお話しいただきました。（令和7年1月29日(水)実施）

山本区長 本日は、お忙しいところ、お越しくださり、ありがとうございます。令和4年度から、佐渡さんに音楽大使をお願いできたということは、区としてもビッグニュースでした。

佐渡音楽大使 昨日も新日本フィルハーモニー交響楽団（以下「新日本フィル」）の楽団員が中学校にアウトリーチで行かせていただいたのですが、大変歓迎していただいたと報告がありました。こういう活動が他の学校に広まって、話題になっていくとよいと思っています。

山本区長 区立小・中学校だけでなく、区内の都立高校や、先日は立志舎高等学校でも吹奏楽部の指導を行っていただいたと聞きました。

佐渡音楽大使 そうです。吹奏楽部の指導は、もうちょっとやりたいなと思っています。

山本区長 我々が目指している「音楽都市」は、新日本フィルとトリフォニーホールの長年の繋がり、そして、やはり佐渡さんとの繋がりができたのは大きいです。佐渡さんが音楽大使として活動されて、お感じになる率直な感想や、今後のヒントになるものがあればぜひお聞かせください。

佐渡音楽大使 そうですね。おかげ様で新日本フィルの定期演奏会と「すみだクラシックへの扉」シリーズは、お客さんがよく入るようになってきましたね。「すみだクラシックへの扉」に関しては、もうほぼ完売の状態が続いていますし、リハーサルも公開する際の熱気といましようかね、そうしたものも、やはり高くなってきたかなと。

いや、でもまだまだですね。広く一般に墨田区を考えたときに、音楽としては、ぴんときない人がやはり多い気がしますよね。

今年は戦後80年ですので、8月には慰霊堂で、小さい編成ですけど、新日本フィルの楽団員とコンサートをやらせてもらおうと思っています。僕は墨田区にきて、墨田区のいいところを知って欲しいけれども、その前に、ここで大震災や大空襲があったということを知って欲しいと思いました。僕は、このことに関しては、すごく大事なのかなと思いますね。

山本区長 そうしたコンサートができるというのはいいですね。墨田区ってこういうまちだと、

しっかりした機会を捉えて伝えることは大切だと思います。

佐渡音楽大使　そうですね。新日本フィルとトリフォニーホールでも広報の協力をしてくれると思います。

山本区長　花火大会や大相撲、向島の料亭では芸者さんの三味線と小唄が聞こえてくるような文化・芸術が身近にあるまち。このような文化を大事にしながら、暮らしやすく、働きやすい、さらにはトリフォニーホールや国技館などの観光コンテンツを巡って、歩いてみたいと思っただけのようなまちである墨田区。

やはり、その中心が音楽であり、トリフォニーホール、それから新日本フィル、これらを実際立たせていくことは、我々の今の大きな課題でもあります。ぜひ、今後、ご助言いただければと思います。

佐渡音楽大使　墨田区の財産ですからね。

山本区長　それから、総合的芸術祭。令和8年9月から12月ぐらいを目指して開催する予定ですので、総合的芸術祭の時期に合わせて、佐渡さんに何かお願いできたらと思っています。

佐渡音楽大使　トリフォニーホール開館25周年記念でしたか、定期演奏会で、区立中学校の吹奏楽部150人ぐらいと一緒に演奏しました。生徒の3年間の学校生活の中で、生徒たちが変わっていく様子を見てみると、また演奏したいなと思いますね。

山本区長　あのコンサートは最高でしたね。佐渡さんが中学生にご指導されていて、地元の中学生とみんな繋がれますね。

佐渡音楽大使　そういう形を高校生でやってもいいのかもしれないし、小学校は小学校でまた何かしたいと思っているのですけどね。子どもたちとやることによって、その子どもたちが感動してくれたら、保護者にも伝わる。もっとそこがうまくリンクしていくと、もうちょっと大きな波になっていくのかなと思います。

山本区長　こんな良いご提案をいただけるなんて嬉しいです。ぜひお願いします。

ですが、お忙しいですよ。コンサートの楽譜を見て、チェックする、というのをこの何日間かやったら、またすぐ違う楽譜を見て準備するのですよね。

佐渡音楽大使　そうです。僕ら旅行が多いので、ホテルにピアノがあるわけでもないし、やはり、頭の中である程度、音が鳴っていますね。恰好良く言うつもりじゃないですけど。

ありがたいことに、子どもの時から、親の教育として、音楽に関しては恵まれていたと思います。小学生の高学年ぐらいから指揮者用の楽譜を見るようになっていったんですね。ほかの子どもがテレビゲームに夢中になるみたいに、楽譜を見るのが面白くて。今も、もうそれが短時間になっただけで、楽譜の見方は変わってない気がします。子どもの時って、もう本当にテレビゲームなんかでも、天才じゃないかという子がいるじゃないですか。のめり込む、というのはそういうことでしょうね。

僕自身がフルートや合唱をやれたのは、京都市の教育のおかげです。大学まで公立の学校ですし、演奏者としての経験も京都市交響楽団があったおかげだと思います。そういうところがいろいろ重なって指揮者になるというところに進んでいく運もあったと思います。

山本区長　佐渡さんは、先日、文部科学大臣から表彰を受けられましたよね。既に、それ以上のご活躍ですけれども。一つの節目ということで、お祝いですよ。おめでとうございます。

佐渡音楽大使

ありがとうございます。ウィーン音楽監督は、今年6月末までで終わります。家族はウィーンに住んだままですが、音楽監督として、新日本フィルの方にシフトできる。この夏以降、アウトリーチをもっとしたいと思います。

山本区長

さらにたくさんの方に墨田区の文化芸術、音楽に注目してもらえるように、身近にある芸術的な資源に憧れと共感をいただけたら、ありがたいと思います。ぜひ、墨田区としても、トリフォニーホールをしっかりと注視しながら、音楽都市を名乗るという自覚を持って、もっとしっかり頑張ってきてほしいと思います。

佐渡音楽大使

学校は、年間スケジュールが決まっています。難しいようですが、もっと学校にも行きたいです。吹奏楽部の指導でなくても、音楽の授業みたいなこともやりたいですね。

山本区長

ぜひ、お願いします。今日は、本当にありがとうございました。

